

「リニア中央新幹線」計画についてシリーズでお伝えしています。

今月は、『道の駅「リニアの見える丘公園」(仮称)整備促進協議会』の発足と市役所1階に設置したリニア模型のフォトスポットについてお伝えします。

問リニア対策課(☎内線214)

道の駅「リニアの見える丘公園」(仮称)整備促進協議会が発足

3月25日、中津川文化会館において、第1回『道の駅「リニアの見える丘公園」(仮称)整備促進協議会』が開催されました。

この協議会では、将来のリニア中央新幹線の開業に伴い、都市部等との交流人口の増加が期待されることから、リニアを活用した新たな観光と地域の防災拠点となる施設を建設し、地域の活性化と安全・安心な暮らしづくりの促進を図ることを目的に、市と中津川商工会議所により発足しました。

協議会の構成は、産業経済界、関係団体の代表者が委員、有識者や

国、県の関係者などがオブザーバーやアドバイザーとして参画し、会長に丸山中津川商工会議所会頭、副会長に大井副市長が選任されました。



挨拶する丸山会長

発足にあたり丸山会長は、「リニアは乗るのも観光であるが、見るのも観光である。中津川市には中部総合車両基地が設置されるため、リニアを見ることがができる。また、幹線道路に関連した道の駅を造り地産地消のメッカとしたい。さらに、かつて中津川は鉄道のみであったため、SLなど過去の技術から、リニアという未来の技術を紹介する科学の拠

点が出来ないかと考えている。また、国土強靱化の一環として、防災の拠点整備も必要であり、これらの視点で皆様と呼吸を合わせて進めていきたい。」と述べられました。

今後は、協議会の下部組織として幹事会を設置し、各関係団体の実務者による整備に向けての検討を進めていく予定です。

リニア模型フォトスポット設置

リニア中央新幹線の理解と関心を深めていただくため、超電導リニアL0系模型とバックパネルを製作し、市役所本庁舎1階に設置しました。

リニア模型は、山梨リニア実験線において走行試験で使用されているL0系車両の約40分の1の大きさにデフォルメされたもので、全長約2メートル、全幅約20センチの3両編成となっています。

また、バックパネルは、リニア新幹線が中津川市内を走行することをイメージして、恵那山、市街地、木曾川などを背景にしています。

このフォトスポットは、市役所開庁時間内はご自由にお使いいただけますので、市役所にお立ち寄りの際はリニア模型と記念の一枚をお撮りください。なお、今後イベントなどで、このフォトスポットを使用し、リニア中央新幹線のPRを行っていくため、一時的に市役所から移動する場合がありますので、ご了承ください。



超電導リニアL0系模型とバックパネル